

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について (○成果 ●課題)

【視点1】考えを広げ深めるための指導法の工夫

○授業構成の流れ

- ・教材を前半と後半に分けたり、場面で区切ったりすることで、考える場面が明確化できた。
- ・導入で挿絵や写真を掲示することにより、主題への関心を持たせることができた。

○発問の吟味

- ・身近な出来事を例に挙げ発問することで、自分事として捉えていた。中心発問につながる補助発問や切り返しの工夫により、児童の考えの深まりが見られた。
- ・登場人物と自分を重ね合わせることができる発問により、児童の考えの深まりが見られた。

●児童の興味や経験が違うため、ねらいからずれないように、指導者が価値項目や教材について考えを持ち、授業を展開することが必要。

●児童をゆさぶる発問や手立てを考えること、児童が学びを深めるための切り返しの発問の吟味が必要。

【視点2】多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの場の工夫

○道徳ノートを活用

- ・考えたことを言葉として明確にし、自分の考えを整理することができた。また、ノートに書いたことを基に発表することができ、意見の交流もしやすかった。

○小グループによる意見交流

友達の考えとの共通点や新たな発見などを知ることにより、自分の考えを再考するなど学びが深まった。

●話合いの際、多数派の意見に流されないように声掛けが大切である。

●考えに対したり、質問し合ったりするとより活発な議論ができるだろう。



<1年次>

成果

○効果的な手立て→黒板のシアター化、心情円盤、ワークシートの活用、場面絵の提示、発問の吟味、ペア学習、道徳ノートの活用

児童の変容・・・自分の考えをまとめ、伝え合うようになった。交流学习を通して、様々な考えに触れ、共有するようになった。

課題

●自分事として深く考えさせることが難しい。・・・授業構成や中心発問の吟味。

●話合いが深まらないペア・・・自分と友達との考えの違いを感じ、より深めるための話合いの工夫。

低学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】**考えを広げ深めるための指導法の工夫**

- ・自分の考えを話したくなるような発問の工夫
- ・自分との関わりとして考えられるような発問の工夫
- ・教材提示の工夫
- ・意思表示しやすい方法の工夫

○自分のイラストと共に「自分がそこにいたら」という発問の仕方は有効だった。

○教材を前半と後半に分けて提示したことで、児童の興味関心を引きつけることができた。

○意思表示の仕方として、全員がネームマグネットを使用したのは有効だった。

●価値や教材によって、児童の興味や経験が違うため、発問を工夫する必要がある。

●児童が話したくなるような発問については、引き続き工夫していく必要がある。

【視点2】**多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話し合いの場の工夫**

- ・iPad やホワイトボードなどを活用した話し合いの場の工夫
- ・道徳ノートやワークシートなどを活用した振り返りの場の工夫

○1年生は道徳ノートより、ワークシートの方が児童の実態に合わせて発問やレイアウトできるので、活用しやすかった。

○ネームマグネットを活用することで、立場を明らかにして話し合いをすることができた。

○授業で活用したワークシートや道徳ノートを蓄積したことで、後から振り返ることができた。

●iPad やホワイトボードなどを活用できなかったのも、今後も活用する方法を工夫していきたい。

●児童に価値について考えさせる時間を確保するために、時間配分も十分考慮していきたい。

【協働型学校評価の重点目標との関連】**進んで読書活動に取り組む児童の育成**

- ・ねらいとする価値に関する図書の読み聞かせや紹介など、図書の活用を試みる。

○教材以外の価値に合う本を紹介したことで、児童一人一人の価値を広げることができた。

●どの本を読み聞かせれば良いのか分からないので、十分に取り組むことができなかった。

(データベースなどがあればやりやすいが・・・)

3 目指す児童の姿に迫るために (今後に向けて)

【低学年部】

○自分の考えを持つことができる児童

○自分の考えを伝えることができる児童

① 道徳に限らず、他の教科においても、課題や発問に対する考えを持たせる工夫を続け、また、マグネットを活用した意思表示の仕方を取り入れていく。

② どの教科においても、考えを伝え合う場を工夫し、経験を積み重ねることで、考えが伝えられるようにしていく。

中学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを広げ深めるための指導法の工夫

・主題への関心を持たせるための導入の工夫

・教材提示の工夫

- 挿絵や写真を提示することで、主題について考えるきっかけを作ることができた。
- 読み聞かせをすることで、情景や登場人物の気持ちを想像したり共感したりすることができた。
- ワークシートやノートを使用し自分の考えを整理してから発表することで考えを深められた。
- ページ構成や物語の展開を生かして進めることができた。
- ノートに書く際に、自分の意見なのか友達の意見なのか区別が曖昧で、見返したときに誰の意見かわからないことがあった。
- ノートに考えを書く際に、何を書くかわからない児童もいるため、ワークシートで書くことを明確にすることも考えられる。ノートが合う子供もいるので、ワークシートを併用することもよいと思った。

【視点2】多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの場の工夫

・交流の工夫

- 道徳ノートに考えを記入させたことで、意見の交流がしやすくなった。
- 新しい生活様式での話合いの形態は検討する余地がある。
- 相手の考えを聞くだけになり、自分の考えを深めていくことが難しかった。

【協働型学校評価の重点目標との関連】進んで読書活動に取り組む児童の育成

・多様な考えに触れさせるための本の紹介

- 道徳的価値に合わせて、関連の本を紹介したことで、本に興味を持つきっかけになった。
- すぐに成果は出ないかもしれないが、継続的にやっていくことが大事だと感じた。

3 目指す児童の姿に迫るために (今後に向けて)

- ① 今後も、自分の考えを蓄積し、振り返ることができるノートを作らせることで多面的多角的に考える児童に近づいていくのではないか。
- ② 学校生活の中で、道徳で学んだことを生かすような発言が増え、自分事として捉えられる児童が増えてきた。
- ③ 本の紹介を継続的に行い、読書への関心を高めていきたい。心の栄養を与え続けていきたい。

高学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを広げ深めるための指導法の工夫

- ・児童の考えが深まる発問の工夫
- ・教材提示の工夫
 - 黒板を2分割したり、マッピングで図式化したりと視覚的に捉えやすくして、考えを持たせやすくすることができた。
 - 教材文に関しての発問では、時系列に沿ってではなく順序を工夫して発問し、児童に考えを持たせやすくすることができた。
 - ねらいからずれないように、指導者がしっかり価値項目について考えを持ち、授業を展開することが必要である。

【視点2】多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの場の工夫

- ・学習形態・意見を交換する形態の工夫(距離を保った話合いの場の設定)
- ・意見を交流させる工夫(ふせんの活用)
 - 道徳ノートを使い、板書を写すだけでなく自分なりの考えを書き込むことができ、自分の思考の整理ができるようになってきた。
 - 小グループでの話合いの際、「話し合ってみよう」と声掛けすると、意見や考えをまとめようとする傾向がある。そうすると、多数派の意見に流れてしまうことがあるので、「出た意見を発表して」と声を掛けるなど、声掛けを工夫する必要がある。

【協働型学校評価の重点目標との関連】進んで読書活動に取り組む児童の育成

- ・道徳的価値項目に関連した本を学級文庫に並べ、児童が読書活動に取り組むことができる環境を作る。
 - 国語の学習と関連させ、伝記などの読書を勧めた。
 - 朝読書の時間を有効に使った。

3 目指す児童の姿に迫るために(今後に向けて)

- ① 相手の意見を尊重し、自分の考えをより深めることができるように、話合いの仕方や形態を工夫する。
- ② 道徳の時間で学んだこと、考えたことを実生活でも行動できるように、意識付けさせる。

特別支援学級 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを広げ深めるための指導法の工夫

- ・興味・関心に応じた教材を使用する。
- ・提示の仕方を工夫し、視覚的に分かりやすくする。
- ・一人一人の考えを認めることで、自信を持っていろいろな考えを発表できるようにする。
 - 興味・関心のある動物について取り上げたことにより、意欲的に活動できていた。
 - 絵本の動物のページを提示することで、イメージを膨らませるヒントになっていた。
 - 一人一人の考えを認めることで、児童が自由に発想することができ、様々な表現が出てきた。また、それぞれが自信を持って発表することができた。
 - 児童の実態が多様であるため、今後も一人一人の実態に合うような指導内容の工夫が必要である。

【視点2】考えを広げ深めるための話合いの場の工夫

- ・観点を与え、1つのものから複数のイメージができるようにする。
- ・友達の考えを参考にしながら、自分の考えを見直したり、選択したりして表現する場を設ける。
 - 動物の特徴や行動を教師が連続して投げかけながら、リズム太鼓を打って表現させたことで、一つ一つの動きが連続した動きになっていった。
 - 意図的指名をすることで、分からない児童が友達の考えを参考に表現しようとする姿が見られた。
 - 楽しそうな動きをしている友達の真似をしてやってみようとする児童が見られた。
 - 表現する動物から複数のイメージを膨らませることができたが、授業のあとに本物の動物の動きを写真や動画等で確認するとよかった。

【協働型学校評価の重点目標との関連】進んで読書活動に取り組む児童の育成

- ・朝の読み聞かせで読んだ本を授業で活用する。
 - 朝の読み聞かせで読んだ本を題材にすることで、児童がより意欲的に学習しようとする姿が見られた。加えて、その本に出てきたたくさんの動物の特徴的な動きを表現させることができた。
 - 他の単元でも取り入れられる絵本はあるか探っていきたい。

【その他】学びの蓄積

- ・授業後に行った校外学習（動物園）で、授業で表現したことのある動物の動きを本物の動物の前で表現する姿があった。
- ・参観者の感想より「体全体で表現することは言葉と変わらぬ力があると感じた」という言葉があったが、言葉だけでなく全身で表現する大切さを改めて感じた。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ①興味・関心に応じた教材を使用する。
- ②友達の考えを参考にしながら自分の考えを見直したり、選択したりする場面を設定する。そして、考えを認め合う雰囲気大切に作る。
- ③朝の読み聞かせで読んだ本を様々な教科でも活用する。

ことばの教室 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

道徳的価値について、自分事として考えたり、友達の意見と比べたりしながら、多面的・多角的に考えることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】**考えを広げ深めるための指導法の工夫**

・自分の思いや考えを持ち、進んで話したいと思える教材の工夫をする。

○教材文のイメージをとらえさせてから本文の音読に入ったこと、考えるステップを提示しながら読み進めたことは効果的であった。考えるステップを4段階にし、具体的かつ含みを持たせながら文章化して提示した。

●気持ちを表す言葉やいいところを表す言葉などの語彙を増やしたり、体験をした後に感想を話したり書いたりと言った活動を取り入れていきたい。

【視点2】**道徳的価値の理解を深めるための話合いの場の工夫**

・伝え合いの中で、自分の考えと相手の考えの共通・類似点を明確にし、相手の立場も理解させることで自分の考えがさらに深まるようにする。

○先人が出てくる地に今現在住んでいる人の暮らしぶりが分かるような映像と談話を提示したことは本人の考えを深めることにつながったと思う。

○事前に担任の先生やもう1人の担当者からメッセージを書いていただき、授業の最後にそれを代弁して伝えた。このときの本児の喜びは、その後の活動の積極性につながっていると思う。

●自分の答えを一発で出すのではなく、試行錯誤の経過をたどることも学びの一つになり得る。

●友達と考えやメッセージのやりとりができる機会も工夫していきたい。

【協働型学校評価の重点目標との関連】**進んで読書活動に取り組む児童の育成**

・様々な図書に触れる時間を導入し、よく知られている昔話や童話、または道徳的教材を音読練習にも取り入れたり、読書活動をしたりする時間を設ける。

○先人が出てくる他の読み物教材を5回に分けて提示した。先人の足跡をたどりたいという気持ちが読書につながることを期待する。

○図書室で借りてきた本や、児童が好むキャラクターの本を音読練習に取り入れることで、読書と音読練習のそれぞれの意欲につながった。

●読書を楽しむ基盤は低学年のうちに絵本に親しむことから培われると思うので、ことばの教室においても積極的に取り入れていきたい。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

①自分の将来を想像し、期待することができる授業を目指したい。

②自分のことだけでなく、集団や社会のことを考えることができる基盤を培われる授業をしたい。

③通級している児童の自己肯定感を高め、自分の気持ちや考えを自分のことばで伝えることができる児童の育成を目指したい。

少人数指導部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (2年次)

1 目指す児童の姿

学習内容に興味を持ち、自分の考えを持つことができる児童
友達の意見を聞いて、考えを深め広げることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを広げ深めるための指導法の工夫

- ・ 導入で既習事項の確認と、本時の内容を示し、学習の見通しを持たせる。
- ・ 課題を自力解決するための手立てとして、図や公式などを掲示する。
 - 導入で既習事項の確認をしたことで、本時の学習のねらいと見通しを持たせることができた。
 - 図や公式などを提示することは、自力解決するのに効果的であった。
 - 自力解決できない児童へは、個別の支援が必要である。

【視点2】多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの場の工夫

- ・ タブレットや実物投影機でノートを映したり、黒板やホワイトボードに考えを書いたりして発表の仕方を工夫する。
- ・ 表と数直線図、図形など共通の表現方法を使い、話合いのための視覚化を図る。
 - タブレットや実物投影機を活用したり、ホワイトボードを使ったりすることで、児童のノートや考え方をクラス全体で共有することができ、効果的であった。
 - 数直線図を自分でかけるようにする必要がある。

【協働型学校評価の重点目標との関連】進んで読書活動に取り組む児童の育成

- ・ 学習内容に関連した図書の紹介や掲示を適宜行う。
- ・ 物語だけでなく、自然科学の分野の本にも触れる機会を作る。
 - 物語以外の本にも触れる機会が増えた。
 - 児童が興味を持ちそうな自然科学の分野の蔵書を増やしていく。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① 単元の最後に「振り返り」をする時間を設け、今後も「導入の工夫」「学習形態・伝え合いの工夫」を授業のスタイルとして、取り組んでいく。